

松山市埋蔵文化財調査年報 I

昭和60~61年度

松 山 市 教 育 委 員 会

序

瀬戸内海に面する松山市は、気候温暖で美しい自然と豊かな風土に恵まれた県下最大の平野であります。

現在、本市の人口は43万人と益々増加の一途を示し、50万都市として躍進中であり、また諸開発も著しく進行いたしております。

一方、松山平野での埋蔵文化財の発掘調査も増加をきたし、著名な遺跡発見が多く見られている所であります。

本書は、松山市教育委員会が近年2ヶ年に発掘調査を実施したそれらの調査概要を収録したものです。これらのうち、“史跡”松山城二之丸跡は、ほぼその本壇部を全面発掘し、注目の大井戸遺構を含め二之丸跡遺構の保存整備を検討している所であります。

また、諸開発に伴う発掘調査につきましても久米高畠遺跡で久米郡衛の存在性が見られるなど着々とその成果を得ているものであります。

発掘調査に際しまして、深い御理解と御協力をいただきました関係各位の皆さんに厚くお礼申し上げる次第であります。

昭和62年3月31日

教育長 西原 多喜男

例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会が昭和60年度～61年度にかけて調査実施した年報である。
2. 各調査遺跡については概観的にまとめて収録した。
3. 昭和60年度以前の調査遺跡については、一覧表にした。
4. 本書の編集及び執筆は、西尾幸則、栗田茂敏、宮崎泰好が担当し、実測、製図を主に池田学、松村淳が行い、統計類は藤永須正が集計整理した。
- 他、実測、整理に宮崎直栄、田所ひろみ、丸山美和、島瀬美徳、諸方の協力を得た。

5. 調査組織

松山市教育委員会

教育長　西原多喜男

参事　松原　重勝

次長　井手　治己

文化教育課長　伊賀　俊輔　　文化教育課主任　西尾　幸則(調査担当)

〃課長補佐（前任）坪内　晃幸　〃　池田　学(調査員)

〃　大野　衛治　〃　松村　淳(　〃　)

文化第2係長（前任）大西　輝昭　〃　栗田　茂敏(　〃　)

文化第2係長　戸田　浩　　宮崎　泰好(　〃　)

6. 近年の発掘データー類を含め古照資料館の利用状況等も合わせて収録した。

7. 指導、助言に感謝申し上げます。

愛媛大学教授　下條　信行　氏

図 版 目 次

- 巻頭図版 経ヶ森より松山平野を望む
- 図版 1 1 松山城二之丸跡
2 松山城二之丸跡(大井戸遺構)
- 図版 2 1 大峰古谷地区古墳群
2 大峰台古谷地区古墳群(4号墳B石室)
- 図版 3 1 久米高畠遺跡(北西より)
2 久米高畠遺跡(SB-2, SB-3)
- 図版 4 1 永塚古墳
2 永塚古墳(主体部)
- 図版 5 1 南久米片廻り遺跡(全景)
2 南久米片廻り遺跡(SB-03)
- 図版 6 1 石井幼稚園遺跡(SD-1)
2 石井幼稚園遺跡(SB-1)
- 図版 7 1 拓南中学校遺跡(SK-3)
2 拓南中学校遺跡(SB-1)
- 図版 8 1 笠ノ口VI遺跡(全景)
2 笠ノ口VI遺跡(SB-1)
- 図版 9 1 塚本古墳(1号墳)
2 塚本古墳(大刀出土状況)

本文目次

永塚古墳	1
筋違C遺跡	3
南久米片廻り遺跡	5
鳥越遺跡(津田中学校構内2次調査)	7
石井幼稚園遺跡	9
素鷺小学校構内遺跡	11
桑原本郷遺跡	13
釜ノ口Ⅵ遺跡	15
久米高畠遺跡	17
松山城二之丸跡	21
塚本古墳	25
南中学校構内遺跡	27
吉照G遺跡	29
大峰台谷地区古墳群	31

表目次

昭和46~59年度発掘調査遺跡一覧表(I)	33
昭和46~59年度発掘調査遺跡一覧表(II)	34
昭和60~61年度発掘調査遺跡一覧表	34
昭和57~61年度松山市占照資料館利用状況	35
年度別占照資料館利用状況	36
年度別埋蔵文化財発掘調査出土遺物数	36
近年7ヶ年の試掘及び発掘状況	36

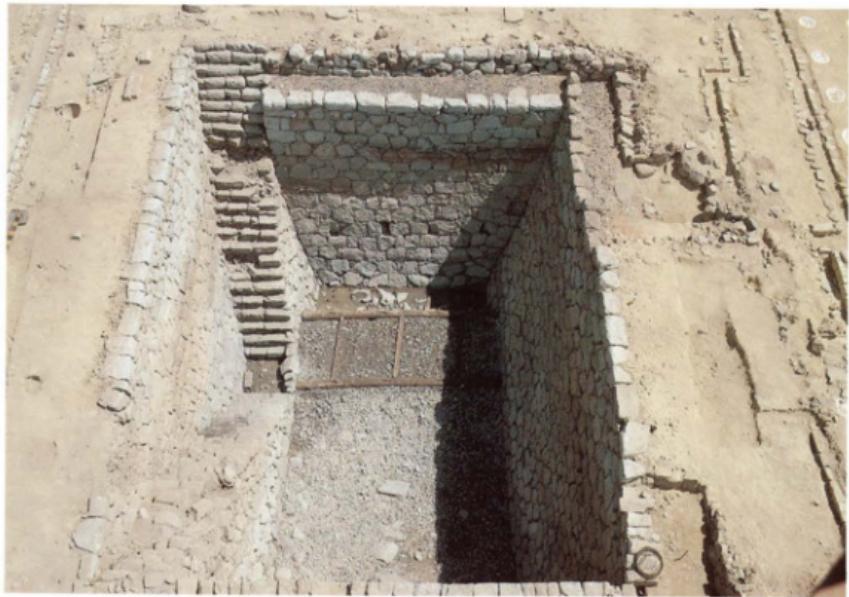


巻頭カラー

経ヶ森より松山平野を望む



松山城二之丸跡



松山城二之丸跡(大井戸造構)



大峰台客谷地区古墳群



大峰台客谷地区古墳群(4号墳B石室)



久米高畑遺跡(北西より)



久米高畑遺跡(SB-2とSB-3)



永塚古墳



永塚古墳(主体部)



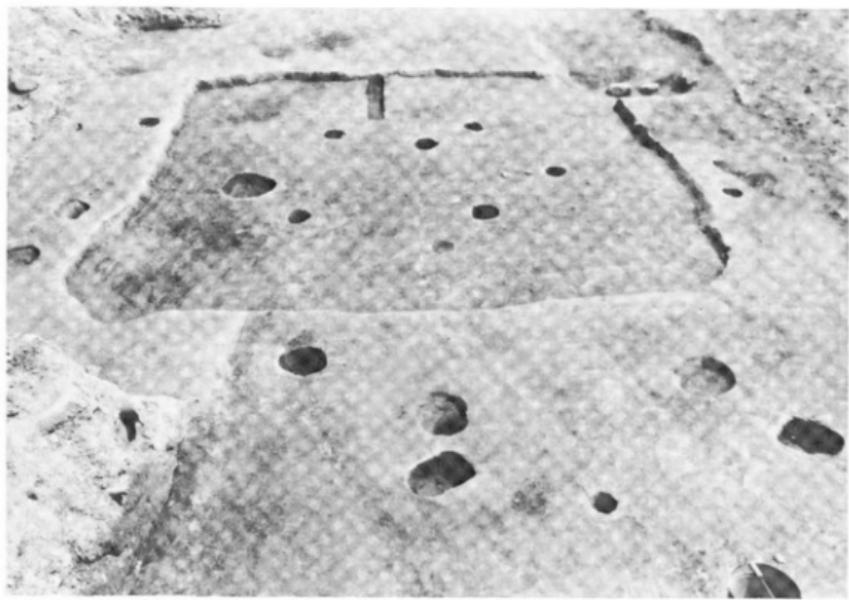
南久米片廻り遺跡(全景)



南久米片廻り遺跡(SB-03)



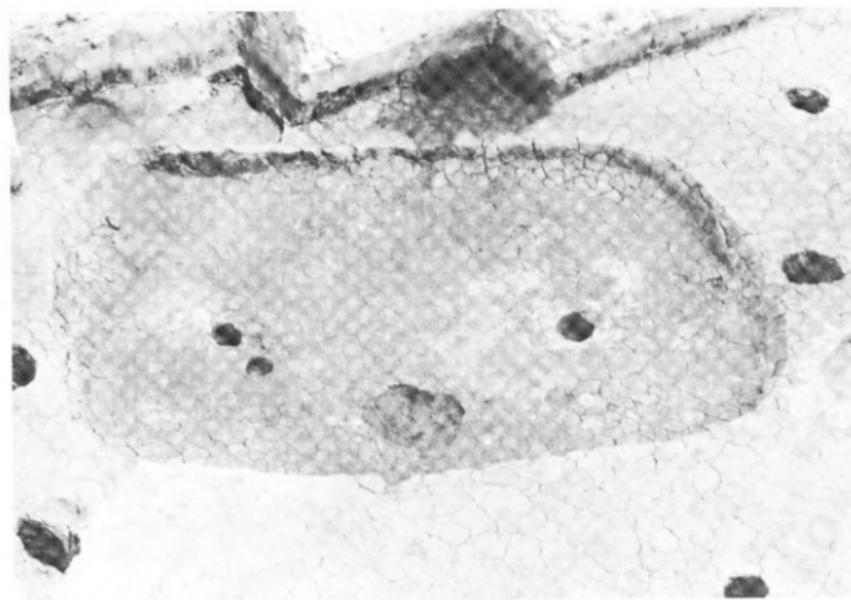
石井幼稚園遺跡



石井幼稚園遺跡 (SB-01)



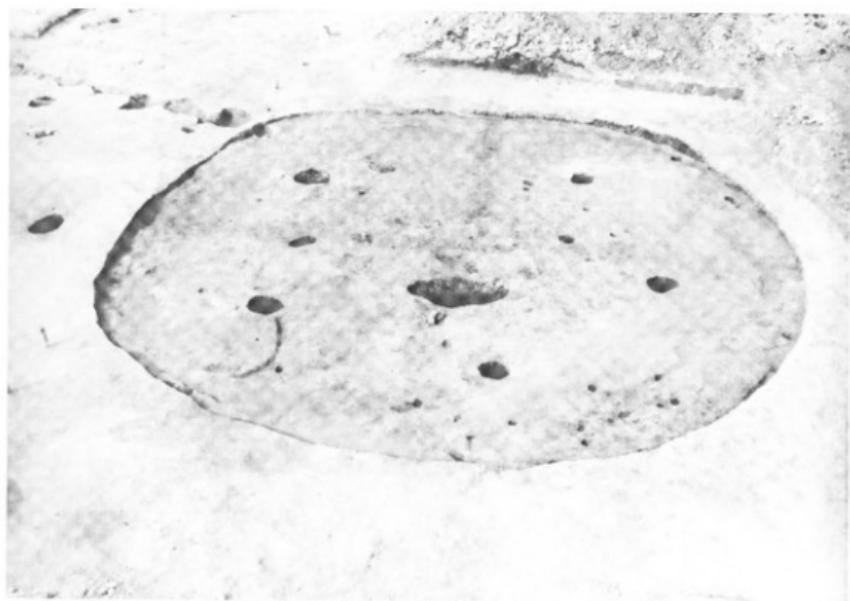
拓南中学校遺跡(SK-3)



拓南中学校遺跡(SB-1)



釜ノ口VI遺跡(全景)



釜ノ口VI遺跡(SB-1)



塚本古墳(1号墳)



塚本古墳(大刀出土状況)

永塚古墳

1. 所在地 松山市衣山2丁目531-

2

2. 絶対位置 東経 $132^{\circ} 44' 43''$

北緯 $33^{\circ} 51' 05''$

3. 調査年月日 昭和60年1月8日～

2月6日

4. 調査面積 580m²



松山平野西部、久万ノ台からその南の衣山の低位丘陵にはかって多くの古墳が存在したが枯土採取や果樹園造成等の要因により消滅したものが多数ある。伊予鉄道衣山駅北西の丘陵上、海拔29mの地点に石室の露出した前方後円墳が存在することは古くから知られていた。戦中の防空壕により主体部の大部分は破壊され、その後も果樹園、畑作等により墳丘部の削平は進み、ついに宅地化によって姿を消すに至った。当教育委員会はそれに先立ち緊急発掘調査を実施し、記録保存を行った。

調査前の現状観察では残存全長18m、うち前方部長8m、後円部長10m、主軸方位をN $59^{\circ} 13' 40''$ Wにとる。主軸に平行して墳丘南側裾部を段状にカットされていた。発掘調査の結果、この段状カットされた残存墳丘の下段でくびれ部を形成していたと思われる溝状造構を検出した。北側でもトレーニング調査の結果、同様の握り込みを検出している。復原くびれ部幅は15m、北側ではほぼ残存墳丘くびれ部と一致したが、南側ではくびれ部でも約4mにわたって段状カットされていることを確認した。したがって主軸も現状主軸より約2m南へ平行移動することとなった。墳丘版築の状況によてもこのことは確認された。現状全長は18mであるが、既に前方部は西側の住宅によりカットされており、溝の形状からすればバチ状にもっとひろがる様相を呈している。後円部も現状では半裁されたかっこうになっており、その径はくびれ部よりも広くなるとすれば少くとも20m前後は

あったものと考えられる。以上のことを総合して、

この古墳は全長40m前後の規模を有していたものと推察している。

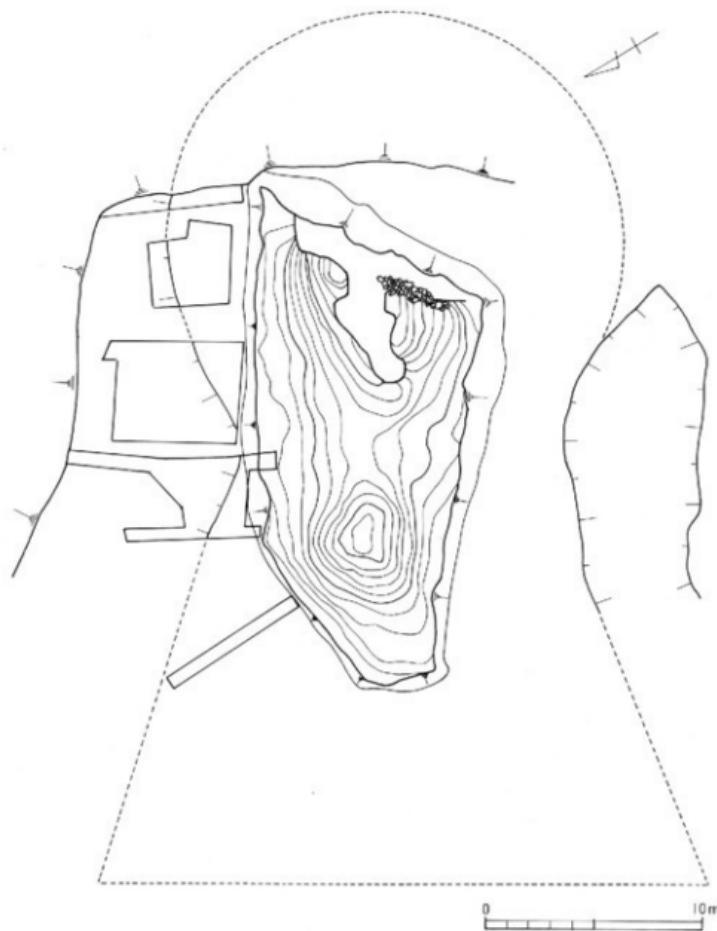
石室は前述のように西側壁の一部と床面の僅かを残して壊滅状態であった。石室主軸方位はN $53^{\circ} 8' 40''$ E、残存石室長3m、高さ0.6m、小ぶりの割り石を横積みしている。床面には玉砂利が攪乱



主体部全景

状態で少々残っているだけである。現状では竪穴か、横穴かの區別も判然としない。石室内よりの遺物は1点も出土していないが、前述の溝状遺構より円筒及び朝顔型埴輪数点と須恵器類の出土をみている。これらの須恵器は7世紀前半代に比定されるものが殆んどである。

(栗田)



永塚古墳墳丘復原図

筋違C遺跡

1. 所在地 松山市福音寺町482

2. 絶対位置 東経132°47'36"

北緯33°49'06"

3. 調査年月日 昭和60年4月15日～

25日

4. 調査面積 550m²

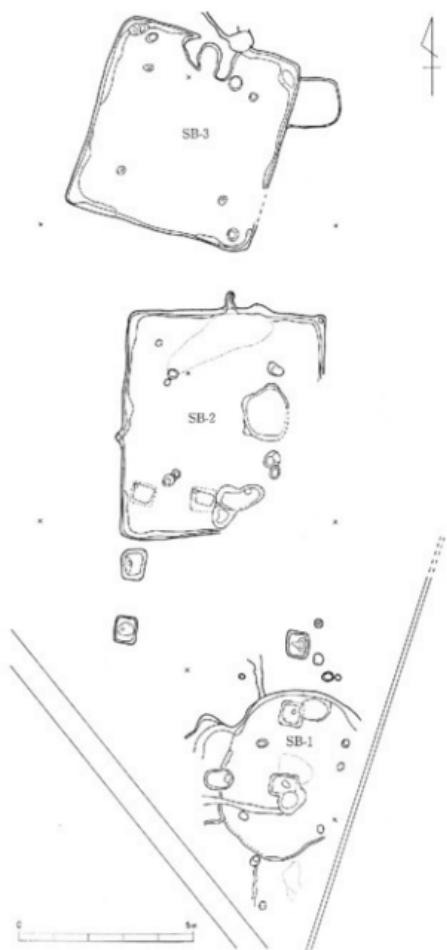


国道11号バイパス建設に伴って昭和49年に発掘調査が行われた福音寺遺跡筋違B地区の東に隣接する遺跡である。耕土と遺構密度の関係で発掘区域を南の1区、北の2区に分けて調査を行った。

1区では堅穴住居址3棟、掘立柱建物跡を1棟検出した。堅穴住居はSB-1～3で、掘立柱建物をSB-4としている。円形住居址SB-1は発掘区の限界のため、約2分の1部分の調査にとどまつたが、径5m、柱間2mの4本柱で中央やや南寄りに楕円形の炉址を持つ。掘立柱建物SB-4に切られていたため混淆状態で遺物が出土しているが、この住居跡に伴うと考えられる遺物は4世紀後半段階に比定される土師器である。SB-2、3はともに方形住居址である。SB-2は南北6.5m、東西6mの規模をなし、柱間3mの4本柱、北辺にカマドを持つ。5世紀末の須恵器類とともに土師器甕、鉢を出土している。SB-3は南北6m、東西5.6m、SB-2と同様、柱間3mの4本柱で北辺にカマドを持つ。土師器甕、高壙等を出土しており、SB-3と同時期の遺構であると考えている。SB-4は1辺60～70cmの方形の柱穴による掘立柱建物である。全柱穴の検出を行うことはできなかつたが、2×4間の南北棟であることは確認できた。柱穴は梁行、桁行ともに心々間2mを測る。SB-1、2を切つており、SB-1内より底部回転系切りによる上部坏の出土が見られ、これらの遺物がSB-4にともなうものと考えている。当地方におけるヘラ切りから糸切りへの技法の転換がいつの時期になるのか未だ不明確な部分が多いのであるが、少くとも12世紀代まではヘラ切り底が残るようである。現段落では遺構の時期を明確に云々することはできないが、最近になって中世遺跡の発掘例も増えてきており、糸切り底の出現とその展開についても遠からず明らかになることと思う。

2区では堅穴住居址SB-5と掘立柱建物SB-6を検出している。SB-5は不定形で五角形に近いプランをなす。径6m、柱間2.5mの6本柱で外壁内側に幅50cm、深さ10cm内外の浅い溝状を掘り込んでいる。中央部に焼土を確認した。弥生終末期の遺物を出土している。S

B-5 を切る S B-6 は径80cm前後の円形柱穴による掘立柱建物で 2×5間分を検出しているが全容は明らかではない。柱間1.7～1.8mを測る。柱穴内よりの遺物で最も新しいものは7世紀初頭段階の須恵杯であり、少くともこの遺構はそれ以降に比定される。 (栗田)



筋造 C 遺跡遺構図

南久米片廻り遺跡

1. 所在地 松山市南久米町564

2. 絶対位置 東経132°47'02"

北緯33°48'35"

3. 調査年月日 昭和60年5月7日～

5月22日

4. 調査面積 920m²



一般国道松山東道路建設に伴い、昭和51年12月から52年1月にかけて発掘調査が行われた前川I遺跡では掘立柱建造物6棟及び、河川遺構が検出されているが、当遺跡はそのすぐ東に隣接して所在する。民間のレストラン建設に先立つ調査である。

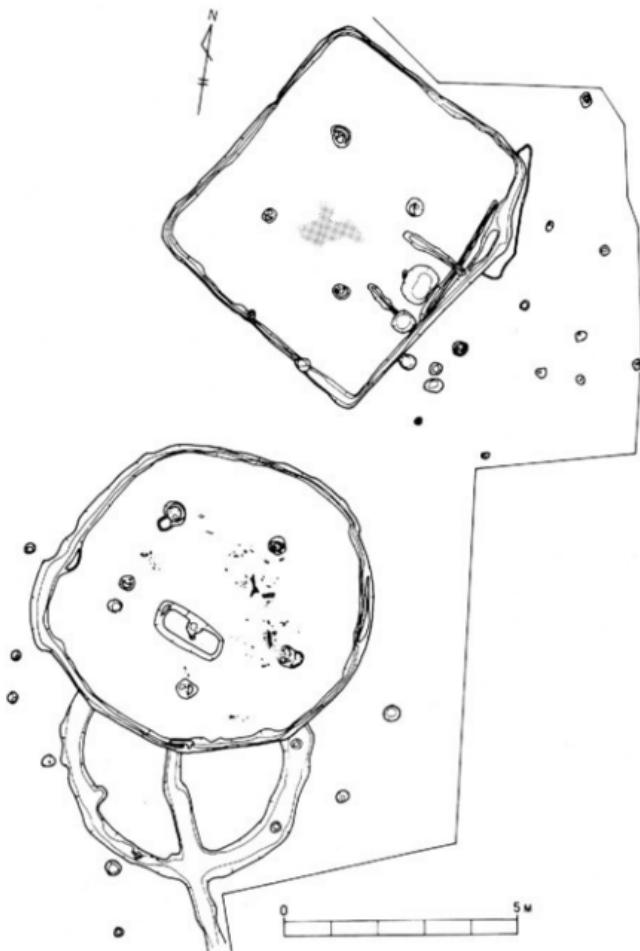
発掘区東側では前川I遺跡で検出済みの河川遺構の上流部分を確認した。遺跡の立地する来住舌状洪積台地には、久米高畠遺跡、米住庵寺跡、久米小学校遺跡、久米庄田遺跡等の弥生前期から平安時代に至るまでの複合遺跡が所在するが、旧河川はこの舌状台地の麓を南西に向って緩やかなカーブを描きながら流れている。河川の埋土の中にはこれらの遺跡からの流出遺物が含まれている。

この旧河川の河岸北西約20m付近で円形竪穴住居址1棟、方形竪穴住居址2棟、隅丸方形穴状遺構1基が検出された。円形住居址SB-02は直径約6.5mで西側に入口とみられる張り出しを持つ。壁下に周溝を切り、柱間2.4mの5本柱で構成される主柱構造を持つ。床面には倒壊した構造材と思われる炭化物が残存していた。床面中央部やや南寄りの長方形の掘り込みには黒色灰状土が堆積しており、炉址と考えられる。出土遺物は弥生終末期の壺、甕、鉢、石包丁等である。特に炉址から出土した小型鉢、台付小型壺は布留一式段階に出現する小型丸底壺の先行形態と考えられるような器型をしており興味深い。なお、住居址南壁付近では鐵錆が1点出土している。

方形住居址はSB-01、SB-03の2棟である。SB-01は発掘区南西端で検出された。東西4.3m、南北3mの長方形プランをなし、壁下に周溝を有する。床面に5個所の柱穴が検出されたが規則的な配列とはならず、また西4分の1部分を用水路によって切られているため主柱構造は不明確であった。南辺に径約0.9mの浅い円形土塗状を有し、その洞脇に長さ約1mの小溝が切られている。この小溝は間仕切り的な施設のためのもので、土塗状部分を区画していたものと考えている。床面及び土塗内より土師高環、壺、甕片等を出土している。SB-03はこのSB-01を大きくしたようなプランを持つ。東西6.3m、南北5.7m、柱間2.3～2.4m

の4本柱の主柱構造で、SB-01と同じく東辺に円形土括と両脇の小溝を有する。床面中央部やや南寄りに焼土が確認された。削平が著しく遺物は少なかったが土師器高杯片を出土している。両住居址ともに古墳前期初頭段階のものと考えているが、SB-02と同時期に併存していた可能性もある。遺物の整理を待って詳細に検討したい。

(栗田)



南久米片廻り遺跡(南よりSB-02、SB-03)

鳥越遺跡(津田中学校構内2次調査)

1. 所在地 松山市北斎院町1106

番地

2. 絶対位置 東経132°43'31"

北緯33°50'16"

3. 調査年月日 昭和60年5月～6月

4. 調査面積 200m²



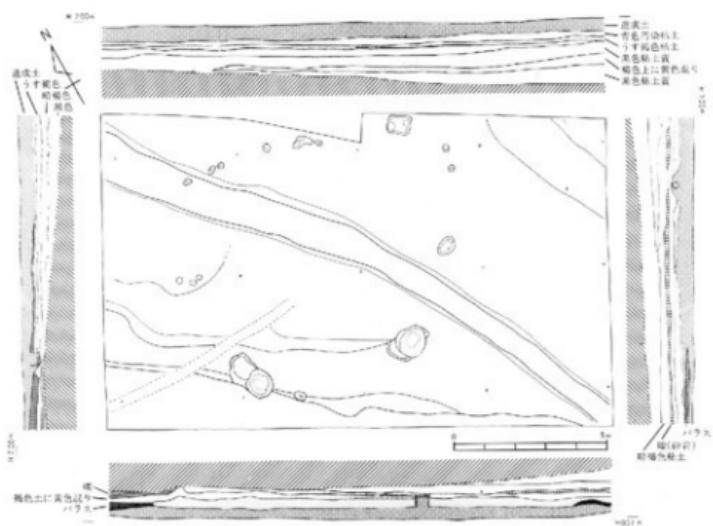
松山平野西端、沿岸部に弁天山丘陵が所在する。本遺跡はその東麓緩斜面(海拔12～6m)に立地している。同丘陵東麓部(本調査地東方200m)には丘陵に沿って宮前川が北流しその左岸面から宮前川遺跡が発見(S. 58. 2)されている。同遺跡の津田、西山の両地区からは、堅穴住居群をはじめ、庄内から布留段階にかけての多量の搬入された土器類が出土し、注目されている。

また、昭和52年6月には本調査地より北東方100mの烏山東麓から鳥越1遺跡が発見され弥生後段階の火災住居址1棟を検出している。

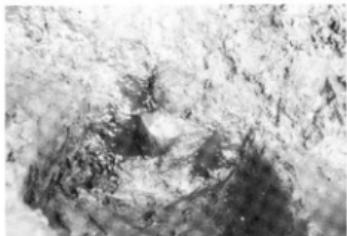
津田中学校構内での本格調査としては昭和53年1月、第二運動場(テニスコート)建設に伴って構内1次調査を実施し、堅穴住居址7棟、溝状遺構などを検出し、弥生後期後半から庄内段階にかけての壺、甕、鉢、高杯、支脚、土鍬、石鍬などが出土している。このうち、出土陶類中には、その下限段階のものに形態、手法とも前述の宮前川遺跡、津田地区出土の在地の甕に同様のものが見られている。

構内2次調査は、昭和60年6月に柔剣道場建設に伴って実施した。本調査地は、前述の構内1次調査地で検出をみた住居群端から南西50mで、同丘陵の緩斜面地帯部になる。土層的には、調査地一帯に弥生後段階の土器を含む粘質黒色土層がみられ、調査地西端の緩斜面(海拔6m)で20～40cm堆積し、同調査地東北隅の低湿地(海拔5m)で1.3mと厚く堆積している。検出遺構は、調査地西北端から東南端にかけて、自然の土手状遺構を境としてその北面一帯に密集した状態で土器溜りが見られた。出土遺物は複合口縁をなす壺、甕、高杯、支脚、器台、コマ状(紡織具)木器などが出土した。これらの時期はその大半が後段階のもので前述の構内1次で検出をみた集落と深く関わるものとみられる。

(西尾)



構内 2 次調査遺構全図及び土層図



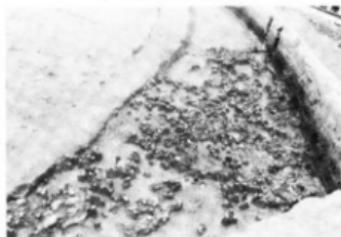
木器出土状況



遺物出土状況



支脚



土手状遺構と遺物出土状況

石井幼稚園遺跡

1. 所在地 松山市西石井町19
2. 絶対位置 東経132°46'37"
北緯33°48'33"
3. 調査年月日 昭和60年6月20日～
7月10日
4. 調査面積 430m²



松山平野を西流して石手川と合流する小野川と重信川との間にひろがる沖積平野の一角に西石井遺物包含地がある。東方に伊予三山と呼ばれる天山、東山、星ノ岡の古墳群を望むこの地域には、古墳時代の住居址とともに弥生時代前期の壺棺墓を検出した石井東小学校遺跡をはじめとして、西石井荒神堂遺跡、南中学校遺跡等の弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が存在する。

今回の調査は幼稚園内改築に伴う事前発掘調査である。トレンチ調査の結果、対象地のうち東側は氾濫による疊混りの粘土が堆積しており、遺構の検出をみなかったため、園地の西側を主に調査を行った。検出された遺構は方形竪穴住居址1棟、住居址の南西コーナーを切った状態での溝状遺構、土括2基、径30cm～50cmのピット群である。ピットに関しては獨立柱建造物を想定できるような配置での検出はなかった。

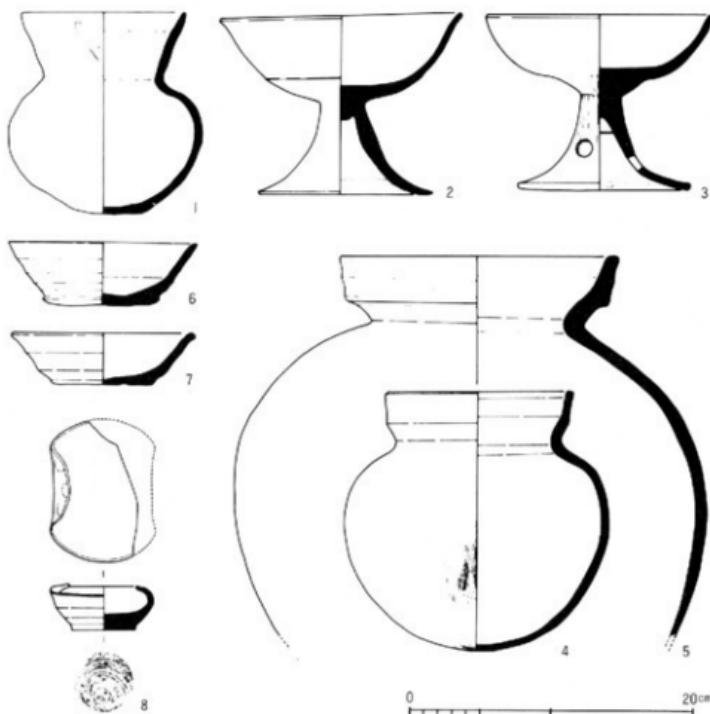
方形住居址は一辺約4m、北東コーナーが若干膨らんだプランで、柱間1.5mの4本柱による主柱構造である。膨らんだ北東コーナーより土師器壺、甕、高环がそれぞれ1個体ずつ一括状態で出土している。また、少し離れた床面から壺1、高环2個体、ガラス小玉1、碧玉製管玉が1個出土した。これらの土師器類は船橋のO IないしはO II、布留1式或いはそれに統く時期のものと考えている。

溝状遺構S D-1からは土師器環が多量に出土し、それらと共に共伴して縁軸耳皿、段皿、灰釉皿がそれぞれ1点ずつ出土した。环は実測に耐え得るもののが80点前後ある。粘土紐巻き上げ、輪轉調整で、外面に輪轉目が明瞭に残るものと、底部立ち上りを回転ヘラ削りして、口縁部を撫で調整する結果、体部に稜を持つものとがある。いずれも切り離しは回転ヘラ切りを行う。縁軸耳皿の素地は黄白色の軟陶で黄緑色の釉を外底面以外の部位に施す。底部は回転糸切りの平高台である。耳部は波状に折り曲げている。段皿は底部片と口縁部片が出土しており1個体と考えている。素地は暗青灰色の硬陶で、したがって釉も暗緑色である。灰釉皿は口縁部周縁に潰し掛けによって施釉しており内面見込み部分は素地のままである。貼り付け

と思われる輪高台を持つ。須恵器片も若干出土しているが、ほとんどが裏等の大型品の体部片であり、年代を比定し得る良好な遺物はない。

当地において縁釉や灰釉の出土例はほとんど報告されておらず、また中世の土師器についてもその編年作業は最近になってようやく緒についたばかりである。したがって、これら一括の土師环のみをとりあげて実年代を与えるのは難かしいが、耳皿、灰釉皿の年代観から言えば、9世紀中葉を遡らない、10世紀前後のものであろうと考えている。

2基検出された土括のうち、SK-1は梢円形のアランをなし、生焼けのため黄色味を帶びているが東播系の裴の口頭部を出土している。裴の形態から12世紀中頃の造構と思われる。SK-2からは糸切り底の土師环を1点出土しているが、糸切りの出現とその展開については不明な部分が多いため、年代観については今しばらく保留したい。
(栗田)



石井幼稚園遺跡出土遺物(1~5・SB-1, 6~8・SD-1)

素鷲小学校構内遺跡

1. 所在地 松山市小坂1丁目4の48
2. 絶対位置 東経132°46'55"
北緯33°49'54"
3. 調査年月日 (構内1次)昭和58年6月
(構内2次)昭和60年7月
4. 調査面積 (1次)1200m²、
(2次)200m²

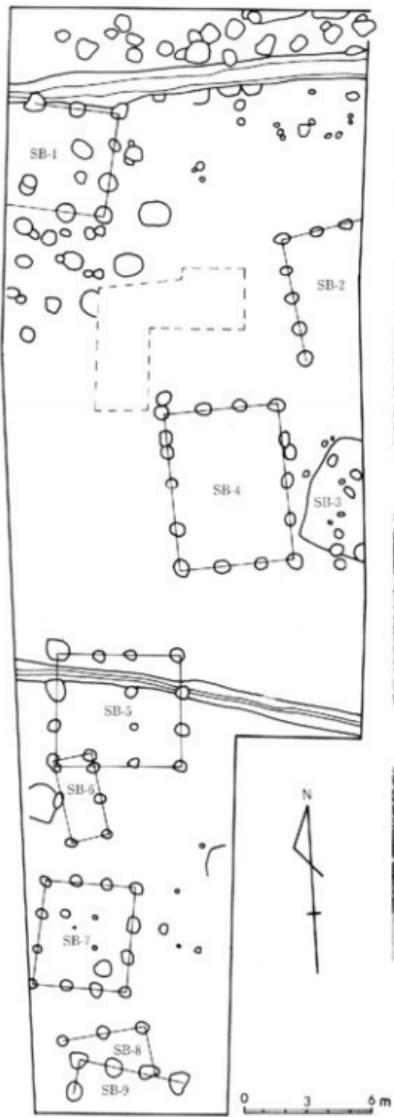


本遺跡は、旧国道11号線新立橋の南方70mに位置し、旧石手川の扇状地に立地している。付近の遺跡には、同小学校西側50mから中村長正寺遺跡が発見され、堅穴住居址を検出し、それより弥生後期段階の土器類が出土している。また同遺跡西側の中村松田遺跡からも堅穴住居址を検出し、同時期段階の出土物が見られた外、奈良期段階の遺構・遺物が見られている。これらは先学者により指摘されている素鷲神社周辺での寺院跡との関りの様相がみられるものとして合わせて注目される。また、同小学校から含めて中村町周辺での、弥生期から奈良期段階にかけての集落構成域を始め、その段階の地形変化も明らかとなりつつある地域である。

構内1次調査での検出遺構は、堅穴住居跡1棟、掘立柱建築物跡9棟などがみられ、掘立柱の柱穴は、ほぼ円形で直径50~70cm、深さ35cmから45cmである。調査地北端からは、東西溝を挟んで柱穴群がみられる。その中でSB-Iは、南北3間(4.6m)、東西2間以上の建物とみられる。SB-Iの南側9mに位置するSB-4は、南北4間(7.05m)、東西3間(5.05m)のもので南北棟とみられる。柱間は、桁行1.76m等間、梁行1.68m等間になる。SB-4に類似するプランにSB-2が接してみられ、南北4間(5.5m)、東西2間分を検出している。SB-4の南側4mで検出したSB-5は、南北3間(5.0m)、東西3間(5.3m)になり、わずかに東西が長い。東側面が庇になるとすれば、南北棟としても考えられる。柱間は、桁行1.66m等間、梁行は東から第1柱間が2.1mで長くなり、第2及び第3柱間が1.6mになる。SB-5の南5mに位置するSB-7は、南北3間(4.65m)、東西3間(4.0m)になり南北棟とみられる。柱間は、桁行1.55m等間、梁行1.33m等間になる。その他調査地南端にはSB-8・SB-9などとみられ、南または西への広がりも窺われる。

これら掘立柱建物群に伴う遺物については、現在のところ確定的でないが、出土遺物的には5世紀から7世紀段階にかけての各須恵器類や土師器類が出土している。このうちの5世紀段階の初期須恵器類は、その大半がSB-3堅穴住居址からのもので、瓶状甕、坪、有蓋高杯などが出土している。

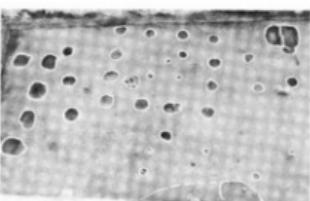
構内2次調査は、前述の1次調査地北側地区の地形測量を中心的に実施している。(西尾)



構内 I 遺跡遺構図



調査地全景(北から)



SB-8とSB-7掘立柱建物



瓶状甌出土状況



SB-3遺物出土状況

桑原本郷遺跡

1. 所在地 松山市桑原4丁目7

2. 絶対位置 東経132°47'47"

北緯33°49'44"

3. 調査年月日 昭和60年9月27日～

10月17日

4. 調査面積 320m²

松山平野東部、東野、畠寺の丘陵部には5世紀末葉を主とした円墳が数多く存在し、その丘陵から西方にひろがる低台地上にも県指定史跡経石山古墳や、昭和46年に発掘調査がなされた三島神社古墳をはじめとした5世紀末から6世紀初めにかけての前方後円墳、円墳が点在する。

当遺跡は経石山古墳の北方約200mの丘陵端に位置する。宅地造成に伴う発掘調査である。検出された遺構は方形竪穴住居跡1、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構1条である。

竪穴住居跡は1辺3.3mの正方形をなし、柱間1.5mの4本柱による主柱構造を有していたものと思われるが、3本の柱穴しか検出できなかった。土師器甕3個体分の片を出土している。5世紀後半代に比定されよう。

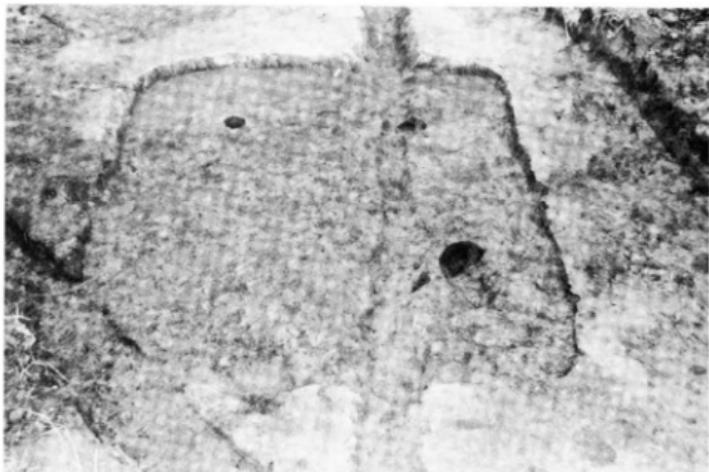
掘立柱建物は柱間1.8の2間×2間の純柱建物である。時期を特定できる遺物はないが、本遺跡全体の出土遺物及び、土層から考えて竪穴住居跡と大差ない時期と思われる。

発掘区北部の包含層から5世紀末葉に比定される有蓋高環数点が、滑石製白玉100点余りと共に出土しているが、明

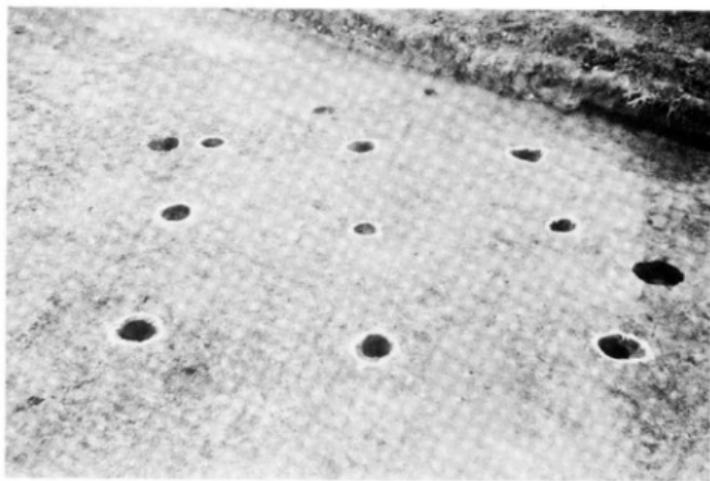
確な遺構は検出されていない。おそらく周辺に存在した古墳にかかる遺物であろうと考えている



調査地全景



S B-1



S B-2

釜ノ口VI遺跡

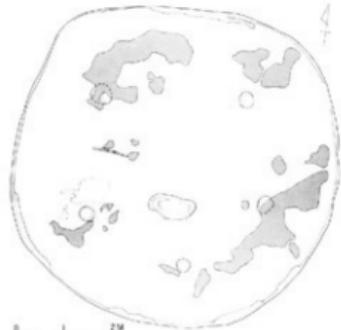
1. 所在地 松山市小坂4丁目36
2. 絶対位置 東経132°47'7"
北緯33°49'29"
3. 調査年月日 昭和60年10月1日～
同年10月22日
4. 調査面積 500m²



本遺跡は、国道11号バイパス石手川（左岸）永木橋の南方850mに位置し、東方の東野台地からさらに舌状に伸び出した微高地端辺（海拔27m）に立地する弥生後期の遺跡群である。本遺跡周辺には、東方500mに東本遺跡と末曉遺跡があり、後期段階の住居跡や遺物の出土がそれぞれ見られている。また本釜ノ口遺跡群の地域内に拓南中学校構内遺跡があり、同時期段階の隅丸住居跡2棟や掘立柱建物跡、土壙などが検出されている。

釜ノ口遺跡の調査は、昭和47年12月、同バイパス（元33号）建設段階で発見されて以来、第6次の調査になる。

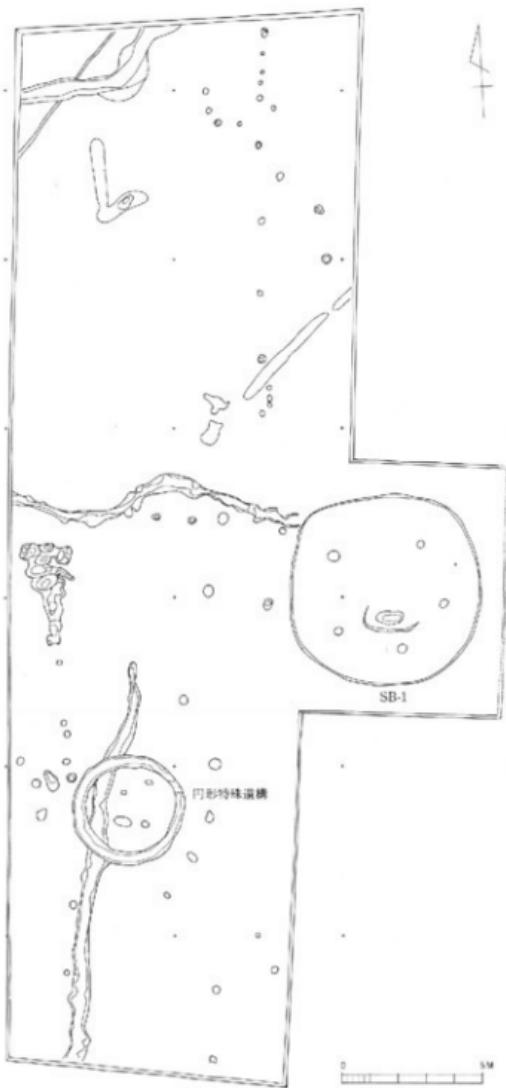
第6次調査はマンション建築に伴って調査した。検出を見た遺構は、円形住居跡1棟、円形特殊遺構1、溝3条などである。このうち調査区中央東端で検出をみた円形住居跡は、直径6.5m規模のもので、中心寄り部に炉址を持ち、5本主柱を検出している。なお、住居内からは多くの焼土や灰等が合わせて検出されており、火災住居とみられる。出土遺物は、後期段階のもので複合口縁をなす壺形土器、甕、高杯、支脚などが一括して出土している。



SB-1 焼土検出状況

円形特殊遺構は、幅40cm内外の溝が1周（径4m）するもので、周りには柱穴が検出されている。出土遺物的には、住居跡と共存関係のものが見られている。なお、釜ノ口1次調査においても同様の遺構が検出されており、建物が付随するか否か、またその性格等についても課題である。

（西尾）



遺構全図

久米高畠遺跡(官衛関連遺跡)



遺跡位置図

1. 所在地 松山市来住町883番地
2. 絶対位置 東経132°48'11" 北緯33°48'36"
3. 調査年月日 昭和60年12月～昭和61年2月
4. 調査面積 1300m²

本遺跡は、松山城から南東4.5km、洪積台地になる来住舌状台地の西端部（海拔38m）に位置する。同台地からは、松山平野が見渡される場所となっている。

本遺跡の調査については、松山市来住町での宅地造成に伴って、松山市教育委員会が事前確認（No.127 高畠遺物包藏地）を行い、緊急調査した遺跡である。

検出遺構は、掘立柱建物跡25棟、掘立柱塙2条がみられ、このうち、少なくとも掘立柱建物跡22棟と塙は官衛に関する遺構としてみられ、本稿ではこれらを主として述べたい。なお本遺跡で検出した掘立柱建物について、確定的な段階のものではないが、各建物のグルーピングを、遺構の切り合い関係や建物主軸により大きくⅢ期段階に分期してみた。

Ⅰ期としての遺構は、調査地西南隅から検出したS-B-8掘立柱建物が、遺構の切り合い関係からみて最も先行するものとみられる。建物は真北に対して東に10°偏し、東西2間分（総長4m）、南北1間分（2.3m）を検出したもので明確ではないが南北棟が推察される。この

久米高畠SITE掘立柱建物跡

柱放間、間口平均値(単位m)　柱頭の大きさ(浮世絵)

遺構名	北側 南側 東側 西側				遺構名	柱頭注
	SB-2	2.13	2.16	2.03	-	
SB-3	2.154	2.16	1.98	-	SA-1	16
SB-4	-	-	2.015	1.98	SB-4	13-25
SB-5	-	-	1.825	-	SA-2	16-22
SB-10	2.18	-	-	2.41	SB-10	17-25
SB-11	2.13	2.07	-	1.72	SB-11	12-26
SB-12	2.10	-	-	2.2	SB-12	10-20

久米高畠SITE掘立柱建物主軸表(真北より)

遺構名	主 緯 後			遺構名	主 緯 後		
	I期	SB-8	N-10°-E	南北?	II期	SB-2	N-80°-W
SB-13		N-80°-W	東西	SB-3	N-87°-W	"	
SB-14		N-78°-W	"	SA-2	N-3°-E	南北	
SB-15		N-78°-W	"	SB-6	N-88°-E	東西	
SB-24		N-81°-W	"	SA-1	N-6°-W(東西)		
SB-26		N-81°-W	"	"	N-4°-E(東西)		
SB-29		N-78°-W	"	SB-10	N-3°-E	南北	
II期	SB-4	N-4°-W	南北	SB-11	N-87°-W	東西	
SB-7	K-0°-	"		SB-12	N-90°-	"	
SB-20	N-3°-W	"		SB-16	N-85°-W	"	
SB-25	N-89°-W	東西		SB-17	N-83°-W	"	
				SB-18	N-87°-W	"	

建物と同一主軸(3°以内)のものを見ると、調査区東部にみられる建物群でSB-13、14、15、24、26、29が掲げられる。

II期の遺構としては、調査地西端から検出したSB-4掘立柱建物がある。この建物は、前述のSB-8を切っている。建物は、真北に対し西に1°偏す南北棟で桁行は東側柱列で15間分(総長29m)検出した。梁行は、2間(総長3.45m)で、北の妻側柱列が消失しているが、北から桁行10間位置で、付随する妻側柱列がみられる。これからみて、桁行10間と解する方が妥当かもしれない。特徴として、本建物のみ柱穴が特に大きく、平面で1.2×1.5m大的長方形状になる。柱痕跡は20cm前後である。建物の性格としては豪華的なものが考えられる。SB-7掘立柱建物は、桁行4間分(総長7.6m)、梁行3間分(総長6m)を検出した。この建物は、SB-4と南北軸を同じくするもので、SB-4建物の桁行延長部柱穴を切っている。その他、同一軸線のものにSB-20、25建物が掲げられる。

次にIII期段階を見ると、調査区南東隅から壠で囲まれた中に、規則的に整然とした形で南北棟としてみられるSB-10とSB-12の建替と考えられるSB-11の東西棟が構成する。これらの性格としては、館的な建物が考えられる。また、これらと共に存するとみられる北西部のSB-2、3は倉的な建物として合わせて考えられる。

これら建物の時期としては、前述のSB-4掘立柱建物の柱痕跡より出土した須恵器類からみて、7世紀前半期を含むそれ以降の時代としか今のところ言えない。文献的には、「国造本紀」に伊予主命が久米国造に任せられていることが記されているほか、「和名抄」や「伊予風土記逸文」によって都衙の存在性が推定されている地域といえる。

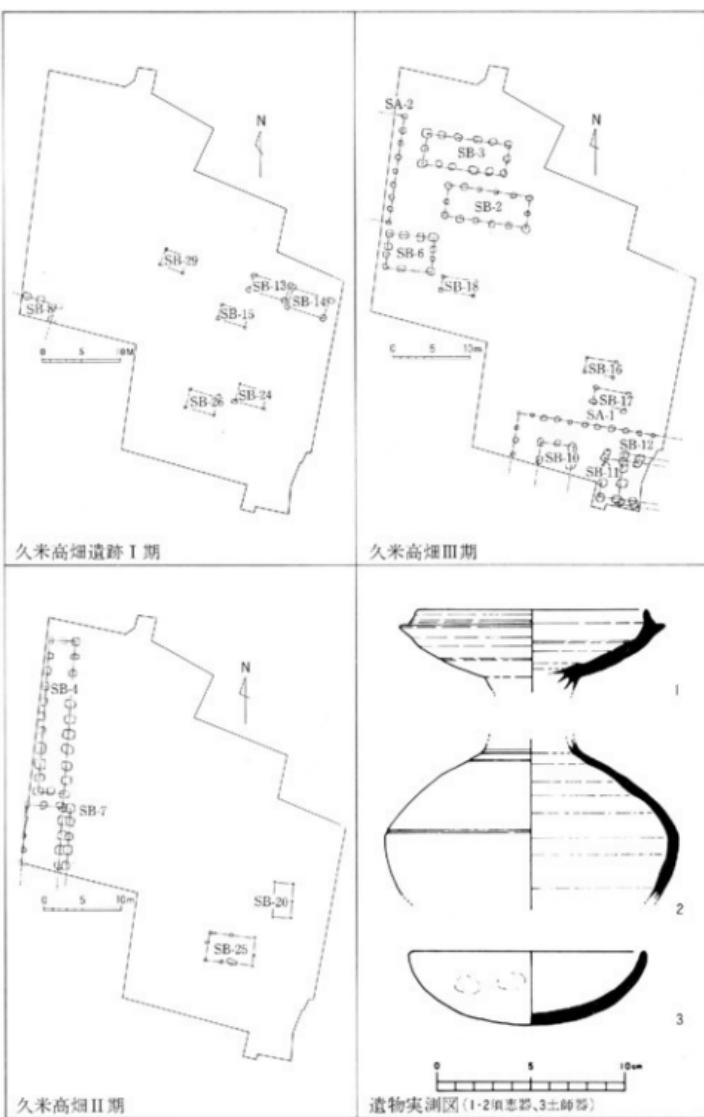
これらの意味や遺物の時期からみれば、本遺跡の東隣りに来住庵寺が存在しており、久米国造の居宅論、または、評段階のものとしても考えられなくはない。しかし、検出遺構からみる限りでは、SB-4建物の柱穴規模を含めた全体プランやSP-10、11、SA-1などからは、都衙の中心をなす群衆的な遺構の一端であることが濃厚とも言える。

いずれにしても課題は多く、本調査区の西側、さらに南面一帯とその東方をそれぞれ追究調査が必要であり、今後の検討を待ちたい。

(西尾)



久米高畠遺跡検出遺構図



松山城二之丸跡



松山城の沿革

松山城は海拔132mの独立丘陵に築城された代表的な平山城であり、別名勝山城、金龜城とも言われている。

城郭の形成は、加藤嘉明によって慶長7年(1602)から寛永4年(1627)にわたる26年間の工事によってその大半が成し遂げられた。その後、蒲生忠知が封任され寛永4年から寛永11年の8年間で二之丸邸の完成やその他松山城関係の残工事をなし完成をみている。

—発掘調査の経過及び概要— (これまでの調査)

松山城の中権機能をなした二之丸の整備を目的として二之丸跡に設置せられていた松山市立城東中学校を昭和58年6月から7月にかけて撤去し、昭和59年9月1日から同年12月28日にわたって二之丸跡第1次調査を実施した。

発掘面積は4000m²になり検出の遺構は、表御殿部を中心としたもので、大書院跡・中書院跡、上台所、16人番所、御留守居番所、廊下、石組排水溝などの外大井戸遺構が発見され注目された。

○二之丸跡第2次調査

第2次発掘は昭和60年7月23日から昭和61年3月にかけて約9000m²を行った。発掘の場所

は昨年発見の大井戸遺構を含め衣御殿部御台所と奥御殿部の調査を行った。このうち大井戸遺構は、昨年平面プラン(東西18.75m・南北14m)を確認していたが、古図に記されている。「高さ5間、水面下3間半、水ソキズ」を検討し調査を進めたものでクレーン車を導入し大がかりな発掘を行った。この結果、基底までの深さ9.1mで乱層積みになり扇勾配を呈する石垣が見られ、東北隅と西北隅には水汲用の石段(幅2m)が検出された。なお、古図には西南隅にも右段が描かれているか積み替えによって消失したものと思われる。

大井戸基底部には東壁から3m位置から梯子状になった上台が検出され、その上面には2m間隔で納穴が施されており大井戸東半部には殿屋が建てられていたことが考えられている。なお、大井戸基底部全面には粘土と直径13cmの礫が敷かれ水の浄化が計られている。

次に大井戸西側からは奥御殿御料理所に通じる南北の地下通路が発見されそれより18~19世紀代の陶磁器類や多量の瓦類の出土が見られている。

地下通路の性格としては最初は水運び用の通路として作られ、のちの19世紀前半段階で送水用陶管が設置せられている。

その他の検出遺構として、表御殿御台所18m×10m、奥御殿台所部18m×10m内外、や居間部、さらに表御殿と奥御殿を区切る塀、瓦製の井戸などの遺構が検出されている。出土遺物的には古伊万里、唐津、古備前、古延部、土師器類などの陶磁器類の出土がみられている。これらうち奥御殿部からのものに比較的古い土師皿や陶磁器類の出土をみた。

昭和61年度松山城二之丸跡第3次調査概要

第3次調査は昭和61年7月17日から昭和62年3月にかけて約6500m²を発掘した。

調査の場所は、二之丸跡本壇西側及び南側と北東隅部を発掘した。これら本年度の調査区においては、衛戍病院段階の撤去が前回調査同様に見られたが、表御殿部と奥御殿部の西側及び南側部の遺構をほぼ確認した。また、二之丸跡北端防備の石垣や二之丸跡北東隅の路次門跡なども合わせて検出した。

*西側調査区

本調査区においては、表御殿御台所西部及び奥御殿御台所部を含むその西半部を検出した。

○多門　二之丸跡西端中央部からは多門を検出したもので、多門の二之丸廊側(東側)に付隨する南北路次門入口部及び北面入口部をそれぞれ検出し、石垣も合わせて検出した。これらからも本丸同様堅固の守りが見られた。

○御土蔵　多門を挟みそれ以南の南端石垣まで続き、2間×22間分を検出し、また御土蔵に付隨する南北溝を40m検出した。

○ゴミ捨場　東西3.15m×南北3.7mになる隅丸方形プラン(深さ20cm)を検出し、中からアワビ、サザエ、ハマグリ、シジミなどの貝類やタイ、ブリなどの魚骨、そして焼塩窓、土師皿、釘などが出土した。

○便 所 多門東部南側路次門の東部から直径60m大(深さ60cm)の円形の掘込みを4基検出した。

*南側調査区

本調査区では、奥御殿南西部を主として検出した。

○御 亭 本調査区では、嘉永段階の古図に見られる奥御殿南端部を確認したもので、南北隅部から御亭(南北2間×東西2.5間)を検出した。

○廊下二方折り 御亭に続く東西方向の疊敷廊下(32畳敷)で、東西両端で直角に屈折するものと見られ、東西全長32m(16間)のうち22m分(11間×幅2間)を検出した。またこの廊下両面には部分的に石敷が残存していた。

○上記の御亭や廊下の下層からは、先行する建物、南北7間×東西6間規模の建物をほぼ確認した。

*二之丸北東隅調査区

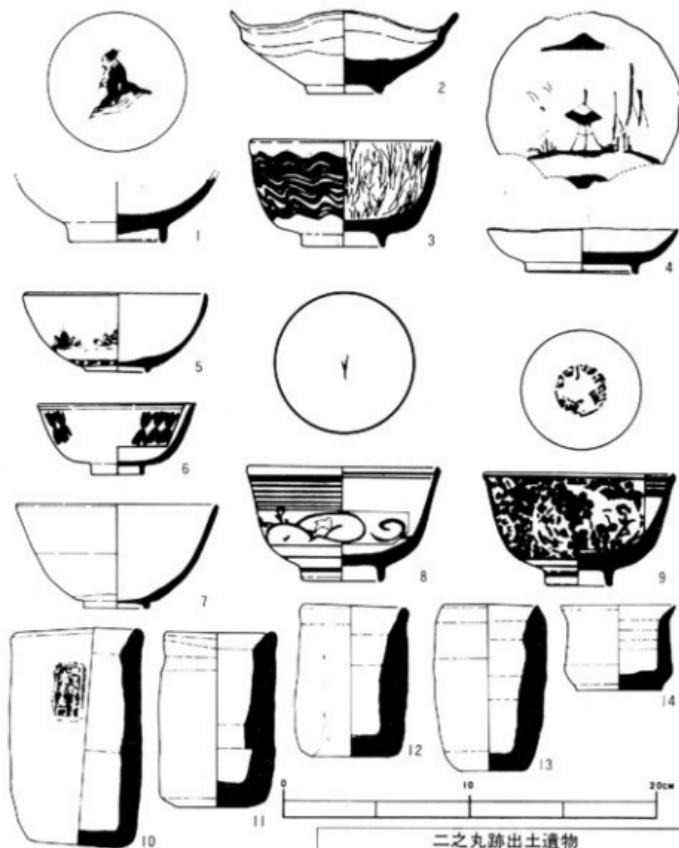
○路次門 撓乱により、路次門全体プランは確認できなかったが、残存した一部の礎石により南北5.4m規模の門になり、他の路次門よりや大きいと言える。

○二之丸北端石垣 二之丸北端防備になる東西方向の石垣70mを検出したもので、元の高さは不明であるが、高さ0.5m~1.5m分を検出した。石積法は、乱層積になる。

*二之丸跡出土遺物

出土遺物は、瓦、陶磁器、土師皿、焼塙壺、土製品、木製品、古銭、鉄製品、銅製品、硯、魚骨、歯骨などが多く出土した。

瓦は、主に明治時代のゴミ穴から多く出土している。軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦、谷瓦、壁瓦、鬼瓦、堺瓦等が出土しており、軒丸瓦は三巴文、軒平瓦は均整唐草文が主体である。時期的には、江戸後期から明治時代の瓦が多い。陶磁器のうち、輸入陶磁器は少量であるが江戸時代全般を通して出土している。国内産では、江戸時代前期には肥前系陶器が、中期には肥前系陶器が主体となっており、後期に入り肥前系陶器と共に、瀬戸焼、萩焼、京焼風が出土している。幕末~明治時代にかけて、在地の砥部焼が主体となり、日用雑器の種類が豊富になる。又、備前焼の甕が江戸時代中~後期にかけて主に埋設され出土している。明治時代のゴミ穴から、19世紀中葉から瀬戸、美濃で多量に焼かれた内面のみ、釉のかかった灯皿と受皿のセットの灯器が出土している。土師皿のうち出土量の約5%は、灯明皿として2枚重ね、3枚重ねで使用したもので、残り約45%が日用雑器として使用したものと思われる。焼塙壺は身約60点、蓋約60点出土している。うち刻印があるものは2点を数えるのみで、「天下一堺○なと藤左衛門」1654年以降。「御塙壺○堺漆〇〇」1682年以降のものである。生産地としては、堺漆が主体であるが、他に江戸時代後期の底部糸切りの播磨産が出土している。時期的には、19世紀前半を除いて17世紀後半から20世紀前半まで出土している。(西尾、宮崎)



二之丸跡出土遺物

- | | | |
|----------------------------------|------------|------------|
| 1. 輪入磁器碗 | 18世紀 | 見込み仙人文 |
| 2. 肥前陶器皿 | 16世紀末 | 見込み繪土目 |
| 3. 肥前陶器碗 | 18世紀前半 | 刷毛目文 |
| 4. 肥前磁器皿 | 19世紀前半 | 山水文 |
| 5. 肥前磁器碗 | 18世紀後半 | |
| 6. 肥前磁器碗 | 19世紀～ | |
| 7. 濑戸美濃碗 | 18世紀末～ | |
| 8. 磁部染付碗 | 19世紀中葉 | |
| 9. 磁部染付碗 | 20世紀 | 銅版摺、見込み松竹梅 |
| 10~14. 燈塗壺(17世紀～18世紀) | | |
| (10. 刻印「天下一塙みなと藤左衛門」(1654～1678) | | |
| 15~17. 土陣皿(灯明皿) | 糸切り・静止糸切り。 | |

二之丸跡出土遺物

塚本古墳

1. 所在地 松山市福角甲1156

2. 絶対位置 東経 $132^{\circ}46'17''$

北緯 $33^{\circ}53'34''$

3. 調査年月日 昭和61年3月21日～

5月9日

4. 調査面積 300m²

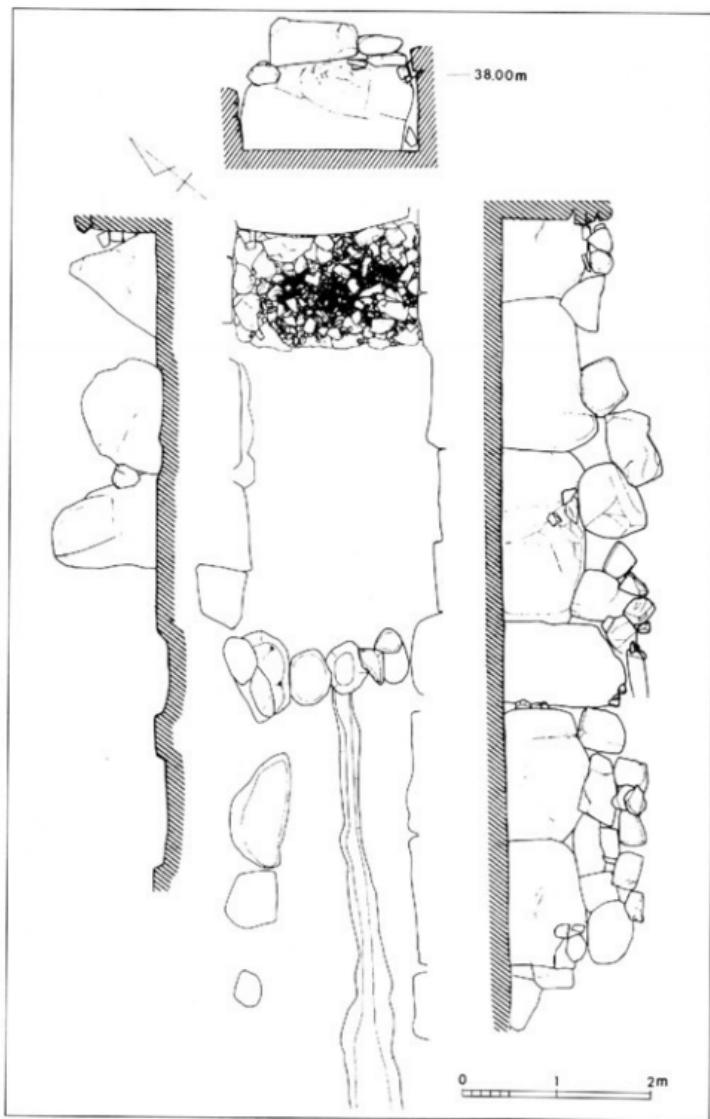


松山平野東北部、高麗山系西面の分岐丘陵の稜線沿いには古墳時代後期から終末期にかけての古墳群が分布している。当墳もそれら分岐丘陵の一つの突端部に位置する。東方より突出する丘陵の緩斜面を削平した水田跡地をゴルフ練習場として利用していたが、新たに宅地として造成されるため、ミニコース全城にわたって11本のトレンチを掘削して遺構の有無を確認した。対象地は東西の丘陵にはさまれた川沿いに立地しており、ちょうど鞍部にあたるため、土砂の堆積が甚しく遺構の存在はみられなかった。11本のトレンチのうち最北部のトレンチは東方丘陵の稜線延長上にあたり、現状は削平されているが、このトレンチで遺物を包含する溝状遺構を確認したため、この区域を拡張して発振調査を行った結果、2基の古墳の検出をみた。北より1号墳、2号墳としている。

1、2号墳ともに削平のため墳丘の面影は全く残っていない。先述の溝状遺構は1号墳の周溝と考えられ、発掘範囲の限界により全容は明らかではないが、一辺 $17\sim18m$ の方墳になるとを考えている。1号墳の主体部は石室南壁の基底石より2段目、奥壁、北壁の一部を残して、石室を斜めに削ぎ取るような恰好で段状にカットされていた。主軸方位を $N51^{\circ}17'20''E$ にとり、花崗岩の巨石を用いて両袖の横穴式石室を構築している。石室全長9m、玄室長4.5m、幅2m、羨道部長4.5m、幅1.3mといった規模である。石室内より7世紀第2四半期に比定される須恵器類とともに、挂甲小札を約60枚出土している。また、玄室奥で金銅装無窓鋸頭大刀の出土をみているが、主頭大刀の県下での出土例は伊予市上三谷の塙塚古墳に一例あるのみである。周溝からは7世紀第1四半期に比定される遺物が出土しており、1号墳築造時の遺物であろうと考えている。

同じく横穴式石室を主体部とする2号墳は基底石を一段残すのみで墳丘とともに石室上部はカットされ、羨道部端も一部段状カットされていた。石室残存長5.3m、玄室長3m、幅1.7m、羨道部幅0.9mの両袖式のプランをなす。主軸方位は $N56^{\circ}41'20''E$ 、7世紀第1四半期に比定される須恵器が8個体出土している。1号墳と同時期に相前後して構築されたものであろう。

(栗田)



1号填石室展開図

南中学校構内遺跡(第2次調査)

1. 所在地 松山市居相町670
2. 絶対位置 東経 $132^{\circ}46'37''$
北緯 $33^{\circ}48'14''$
3. 調査年月日 昭和61年5月15日～
6月21日
4. 調査面積 290m²



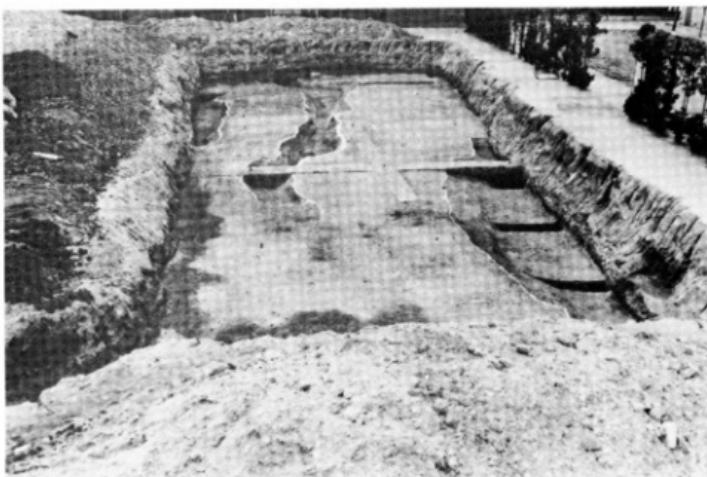
昭和50年に行われた第1次調査では、グラウンド南端で古墳中期前半代に比定される一辺5.5mの方形堅穴住居跡1棟を検出しているが、今回の調査地はその北方100m、グラウンドの北端に位置する。前年度調査の石井幼稚園遺跡の南、約500m、武道場新築に伴なう調査である。

石井幼稚園の調査区東半は氾濫を受けていたが、当遺跡も調査区全域に涉って氾濫による含礫黒色粘土が分厚く堆積している。おそらく南方1.5kmを西流する重信川が大規模な氾濫を繰り返していたものと思われる。この含礫黒色粘土の面で溝状遺構3条を検出した。3条ともに方位を東西方向にとる。これらの溝は人為的に掘られたものではなく、氾濫時にとり残された自然流路であったと思われる。

主に遺物を出土したのは、発掘区中央のSD-1である。SD-1は幅1.5～2.5m、長さ15mにわたって検出された。遺物は弥生前期後半から後期前半まで混淆しており、時期を隔てて層位的に堆積したものではなかった。遺物の胎土は、松山平野南西部の各遺跡で一般的にみられる1～3mm大の砂礫を多く含む粗悪な胎土である。なお、前期中頃に比定される壺で腹部に焼成後穿孔され、壺棺として使用されたと考えられる遺物が1個体出土している。(栗田)



SD-1 遺物出土状況



調査地全景



SD 1 遺物出土状況

古照G遺跡(市道千舟・高岡線関連遺跡)

1. 所在地 松山市南江戸3丁目

2. 絶対位置 東経132°44'54"

北緯33°50'2"

3. 調査年月日 昭和61年4月6日～

7月31日

昭和62年2月4日～

2月28日

4. 調査面積 約2700m²



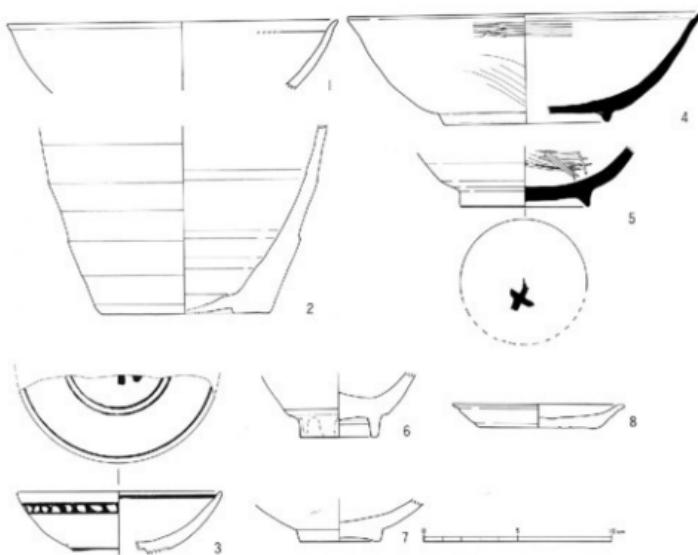
当遺跡は、市中心地より西へ約1kmに位置する。周辺は右手川水系が形成した沖積平野であり、砂層の堆積状況等から、氾濫原に立地する遺跡といえよう。西には灌漑用水施設の堰で有名な古照遺跡(4世紀)。北には、古墳群が主体の大峰台遺跡群(弥生時代～中世)があり、当遺跡周辺が生産地(水田地)の可能性が考えられていた。

61年度から、松山空港から中心部への交通緩和の為の市道千舟・高岡線の事前調査を行なった。

検出遺構としては、溝状遺構14条、杭列6条、樋列3条、畠の歛状4条、ため池状遺構1基、あぜ条遺構2条、土壙2基、ピット2基があげられる。特に調査区中央で暗褐色粘土層中の溝状遺構は、4条の杭列を持っている。1条は南岸に全長2m、杭数7本の規模で、他の3条は北岸にあり、全長51m、杭数93本。全長40m、杭数58本。全長4m、杭数14本。とそれぞれ計る規模で、灌漑用施設と思われる。他の杭列2条は、一部分しか確認できなかつたが、暗褐色粘土層の下層青色粘土層中の打ち込みであり、前記杭列とは時間差を持つ。又、樋列3条のうち2条は、調査区西側で幅30cm前後、深さ3～5cmの浅い溝状遺構を挟んだ状態で検出された。この樋列は調査区外西に接した県埋文調査区で一部確認されている。

出土遺物は、弥生時代(壺・甕・高杯・鉢・手でくね・支脚)、古墳時代の土師器(壺・甕・杯・高杯・瓶)、須恵器(壺・甕・杯・高杯・鏡)、中世(黒色土器・瓦器・土師皿・高台付碗・貿易陶磁器)、近世(肥前系磁器、備前系の鉢・古祇部の染付碗や皿)等が出土している。木器としては、漆椀・曲物の底材、竹製の籠、櫛、たたき板、木材、木箱、木杭、加工材が上げられ、他に獸骨と植物遺体が出土した。出土状況は、砂層内ではバラツキがあるが、遺構検出面の暗褐色粘土層・青色粘土層中では、良好な、中世(主に平安後期～室町前期)の黒色土器、土師皿等がセットで出土しており、次年度、延長部の調査終了後、細分、検討していきたい。

(宮崎)



古照 G 遺跡出土遺物



古照 G 遺跡調査区全景(杭列)

大峰台客谷地区古墳群

1. 所在地 松山市南江戸6丁目

2. 絶対位置 東経132°44'30"

北緯33°50'24"

3. 調査年月日 昭和61年7月1日～

62年2月9日

4. 調査面積 約5100m²

当古墳群が立地する大峰台丘陵は、以前より、形象埴輪が出土した岩子山古墳など数基の古墳や高地に弥生住居址が立地する大峰台遺跡等の発掘調査を行なってきた。

近年、大峰台丘陵を総合公園化の計画が持ち上がり、当丘陵の遺跡分布や詳細調査を行なっている。61年度は、客谷地区の調査を行ない、30数基の古墳を確認した。うち古墳7基を調査するとともに、土壙11基、溝状遺構2条、経塚1基を検出した。

古墳のうち、4号墳は、墳丘規模南北16m、東西11.2mを計る長椭円形を呈する円墳で、主体部を2基持つ。A主体部は墳丘中央部に、墳形の長軸上で、南に開口した無袖の横穴式石室が構築されており規模は玄室長4.0m、羨道長2.5m、奥壁幅1.5m、現存高1.5mを測る。玄室床面は奥壁から開口に向かって0.9mの幅内外で、玉石が敷かれており、その玉石のない奥壁側は、人骨が約5体分が、折り重なって検出された事から、棺床面として意識的に玉石を敷かなかつたと思われる。

B主体部は、墳丘部北側から周溝にかけて、墳丘側を断面L字状に地山整形し、玄室長1.3m、玄室幅0.35m、玄室高0.7mの規模で、小ぶりの石材を用いており、丘陵に向いや直交して小規模な横穴式石室を構築している。床面西側1/4に敷石をしており枕石が現存していた。4号墳A・B主体部とも副葬品の須恵器が7世紀前半であり、B主体部の埋上状況から、ほぼ同時の構築と思われる。

又、3号・7号墳は、径5m前後の周溝を持ち、主体部が、地山を長方形に掘り込んだだけの直葬タイプの古墳である。両古墳とも他の古墳と比較して、やや低地に立地している。

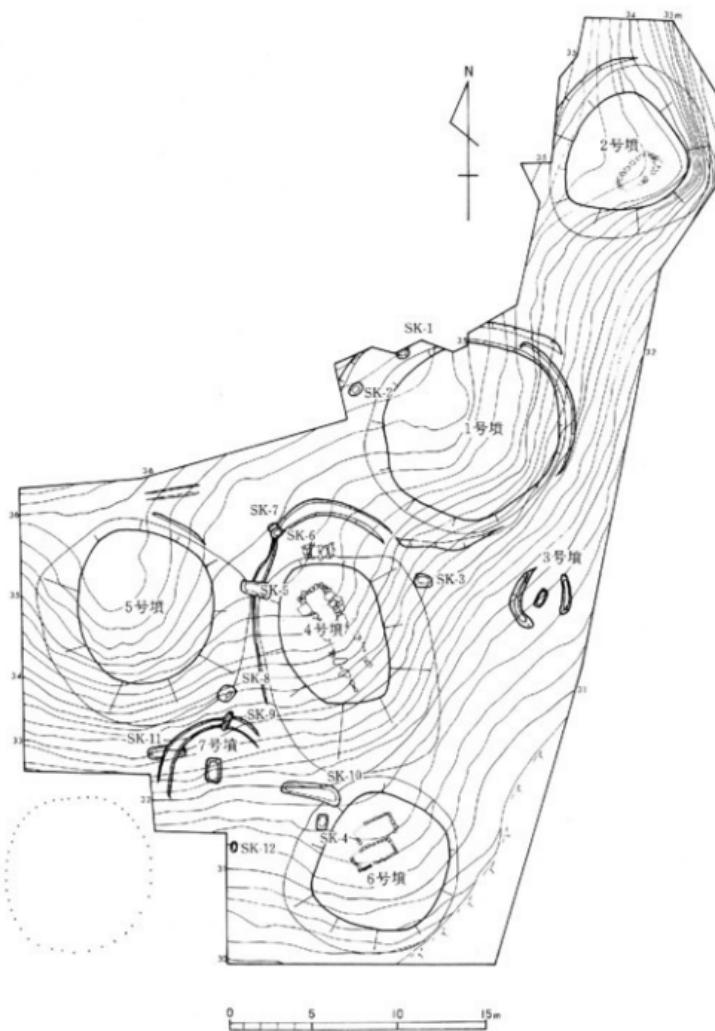
一字一石経塚は、ため池に面した斜面上に立地している。以前に移築されている石碑の銘文から、嘉永2年(1849年)の建立と思われる。

出土遺物は、須恵器、土師器、埴輪片、玉類、耳環、鉄器類など多数出土した。注目される遺物として、直刀の装飾品に使われた水晶製の三輪玉が6号墳周溝内より、高杯、杯、とセットで出土した。

出土須恵器から当古墳群は、7世紀前半期の群集墳である。

(宮崎)





客谷地区検出古墳群

1. 昭和46~59年度 発掘調査遺跡一覧表(Ⅰ)

No.	遺跡名	所在地	調査内容	時代	遺構遺物等	調査年度
1	三森神社古墳	椎守町269	緊急	古墳後	前方後円墳	46年
2	天山神社古墳	天山町294	n	n	環状乳石柱断面	n
3	かいなご古墳	平井町谷ノ内253	n	n	方墳、円墳	46~47年
4	松ヶ谷古墳	高原町松ヶ谷203	n	n	円 墳	47年
5	東吉神社遺跡(第1次)	丸の内23-1	n	弥生中	土堤・塗・縄文土器	47~48年
6	古川遺跡(予備・第1次)	南江戸1080	n	古墳前	n	47年
7	城ノ口遺跡	小牧町4丁目	n	弥生後~古墳初	住居址1棟、獨立4棟	48年
8	御園所口号墳	大字弓削248	n	古墳後	円 墳	n
9	木賀道	蛭木町113	n	弥生後	上塙1基	n
10	燈寺遺跡	蛭木町81	n	古 墳	円 墳	n
11	忍野山古墳	北青田町77	n	古墳後	n	n
12	相模原	坂井町3.0	n	中世	墓	n
13	久万の古西遺跡	久万の台1248	n	古墳後	椭円石室	n
14	月日寺(イヌヌイヌ)遺跡	小堀・中村・越後・約ノ下・福貴野	n	弥生後~古墳後	住居址、獨立 他	48~50年
15	古屋遺跡(第2次)	西江戸11-31	n	古墳後	n	49年
16	城ノ口遺跡	小牧町4丁目419	n	n	n	n
17	大森ヶ台遺跡	日向町1丁目1709	n	弥生中	住居址3棟、上塙2基	n
18	南北中遺跡	東石井町	n	弥生後	住居址	n
19	北上原遺跡	北上原町	n	n	n	n
20	魔ノ子遺跡	魔ノ子町	n	弥生後	集落地	n
21	高須原遺跡	高須原町	n	古墳前	住居址	50年
22	北古院遺跡	花菱町914番	n	古 墳	n	n
23	南久米遺跡	南久米町	n	弥生後	n	n
24	支京遺跡	支京町	n	弥生中~後	住居址	n
25	桑原山古墳遺跡(第1次)	桑原町	n	古墳前	n	n
26	枝松遺跡	枝松町	n	弥生後	n	n
27	八山古墳	八山町・東本町	n	弥生中	上塙13基、住居址1棟	n
28	支卓遺跡	支卓町3	n	弥生中~後	住居址	n
29	東野遺跡	東野5丁目甲1693~48	n	古墳前	円 墳	51年
30	北青院遺跡	北青院町914番	n	古 墳	n	n
31	北久米遺跡	北久米町	n	弥生中~古墳後	住居址3棟	n
32	尻谷遺跡	尻谷6丁目甲1348番	n	弥生中~	住居址1棟、腰帯墓2基	n
33	東野遺跡	東野5丁目甲898	n	古墳前	円 墳	n
34	越智遺跡	越智町222	n	弥生前	寺 稲	n
35	南久米遺跡	南久米町68~1	n	弥生後	住居址	n
36	五日置跡(第4次)	枝松町	n	n	椭円石室	n
37	西石井鬼神堂遺跡	西石井町244-1	n	n	住居址1棟、腰帯墓1基	n
38	桑原小字古原遺跡	桑原町	n	古墳前	住居址	n
39	桑原山古墳遺跡(第2次)	桑原町180-1	n	弥生後	住居址5棟	n
40	古黒遺跡	古黒町	n	古墳前	n	n
41	鳥越遺跡	鳥越町	n	弥生後	住居址	n
42	魔ノ子遺跡	魔ノ子町	n	弥生中	住居址1棟	n
43	魔ノ口遺跡(第2次)	枝松町1丁目102~103	n	弥生後	住居址1棟、獨立3棟	n
44	南久米遺跡	南久米町	n	n	n	n
45	清見遺跡	清見辺り26	n	古墳後	須磨器類	n
46	北久米遺跡	北久米町外	n	n	n	n
47	魔ノ子遺跡	魔ノ子町1-1	n	弥生後	n	52年
48	鬼本遺跡(第2~3次)	鬼本町98	n	n	住居址	n
49	東野古墳	東野町	n	古 墳	円 墳	n
50	魔ノ子遺跡	魔ノ子町	n	弥生後	n	n
51	魔ノ口古墳	魔ノ子町2402-4-6	n	古墳後	円 墳	n
52	浮穴古墳	浮穴松原32	n	弥生後	腰帯墓3基	n
53	古無遺跡(第4次)	南江戸戸	n	古墳前	n	n
54	越智遺跡	越智町	n	弥生前~古墳前	住居址	n
55	久米遺跡	久米町	n	古墳後	獨立3棟	n
56	笠ノ口遺跡(第5次)	小坂町1-3-3-3-15	n	弥生後	住居址	n
57	猿籠寺遺跡(第2次)	猿籠寺町52	n	弥生前~古墳後	寺院址	n
58	糸作魔寺跡(第5次)	糸作町	n	n	n	53年
59	東山青ヶ森古墳	西石井町乙20	緊急	古墳後	円 墳	n
60	東山青ヶ森古墳(第2次)	n	n	n	n	54年
61	通月城	通月城1、通月公園	n	n	n	53年
62	鶴が岬遺跡	石風内町乙41-8	n	弥生前	若狭六古墳	54~57年
63	文京遺跡(第2次)	文京町	n	弥生中~後	住居址1棟	55年
64	支京遺跡	n	n	n	住居址	n
65	花尾小遺跡	支京町1245	n	n	n	n
66	三輪桜山古墳	桜井町乙15-4	n	古 墳	通 輪	56年
67	駿馬堺	谷原町	n	古墳後	獨立	n
68	文京遺跡(第3次)	文京町3	n	弥生中~後	住居址	n

1. 昭和46~59年度 発掘調査遺跡一覧表(II)

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代	遺構遺物等	調査年度
69	北齋藤日山古墳	北齋藤町乙9-1	緊急	佐生前	木製紋土器	56年
70	文京遺跡(第4次)	文京町2-2	#	#		57年
71	子神ノ木古墳	福岡町	#	古墳後	須恵器、鉄器、鐵	#
72	唐津竹ヶ谷遺跡	唐津市内238-28	#	弥生-古墳	大型的墓穴群墓	#
73	久米小学校境内遺跡	久米町2-2	#	古墳		58年
74	素麿小遺跡(境内1次)	小坂1丁目4-4-8	#	古墳-奈良	獨立柱遺構	#
75	津屋寺遺跡	北久米町894-1-891-2	#	古墳後	獨立柱、船穴住居跡	#
76	北久米二ノ瀬古墳	北久米町	#		前方後円墳前方部	#
77	茅屋廻塚	茅屋町6-14-1外2	#	白馬	守城施設(柵)	#
78	北谷吉墳群	北谷	#	古墳後	埴輪、須恵器也	58年
79	久米小遺跡	廣ノ町2-2	#	古墳-平安	集落・住居	59年
80	浮穴小遺跡	森松町8-2-2	#	弥生末-古墳前	船穴住居跡	#
81	南齊院遺跡	北齊院町122-9-1外8	#	弥生-古墳	地形測量	#
82	和田中遺跡	松橋5丁目4-3-9	#	弥生後	堅穴住居跡	#
83	松山城丸ノ丸之内1	#	#	#	純土塁、二戸所	#
84	松山城二之丸跡	丸之内4	学術	#	二之丸跡	#
85	木家古墳	衣山2-531-2	緊急	古墳後	前方後円墳	#
86	中村正寺遺跡	中村1丁目	#	弥生後	船穴住居跡	#

2. 昭和60~61年度 発掘調査遺跡一覧表(III)

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代	遺構遺物等	調査面積 (m ²)	調査日数 (日)	調査後の措置	調査年度
87	筋達C遺跡	筋官寺町480-1 485-1	緊急	古墳前-中	堅穴住居跡(カマド附)	350	11	工事実施	60年
88	南久米片見り遺跡	南久米町564-1外3-3	#	弥生後	堅穴住居跡	920	13	#	#
89	大崎ヶ台遺跡	朝日ヶ丘1-1276外	#	古墳	遺跡確認調査	—	47	#	#
90	鳥城遺跡	北齊院町1106	#	弥生後	壘落埋設+鋤埋	200	27	#	#
91	石井幼稚園遺跡	西石井町	#	古墳前-平安	堅穴住居跡	300	18	#	#
92	新設高校	井門町	#	中近世	河岸遺構	10,000	10	#	#
93	素麿小遺跡 (酒内2次)	小坂1丁目	#	古墳-奈良	地形(断面測量)	200	15	#	#
94	松山城二之丸跡	丸之内4	学術	江戸	二之丸跡 大井戸遺構	9,000	188	遺跡整備 (計画中)	#
95	桑原本郷遺跡	桑原4丁目	緊急	古墳中	堅穴住居跡	320	20	工事実施	#
96	並ノ口遺跡 (第5次)	小坂4丁目36-1 36-2	#	弥生後	堅穴住居跡(火災) 円形特殊遺構	500	18	#	#
97	久米高畠遺跡	米佐町883-1外	#	7C以降~	官衙関連遺跡	1,300	62	周辺調査検討 委員会開催	#
98	内相G遺跡	湘江戸3-1-617外	#	室町-江戸	水田開闢遺構	2,200	63	工事実施	61年
99	駒木遺跡	福角町甲1186外	#	古墳後	生頭大刀	500	17	#	#
100	南中遺跡	東石井町670	#	弥生-前-中	泥路・塗	260	40	#	#
101	松山城二之丸跡	丸之内4	学術	江戸	二ノ丸櫓・奥殿部 多門櫓	6,500	221	遺跡整備 (計画中)	#
102	大峰ヶ台 香谷古墳群	南江戸町1602外	詳報	古墳後	群集古墳	26,000	145	古墳5基保存 (検討中)	#
103	古原敷道跡	久木蓮田町837-1外	緊急	弥生前-古墳後	獨立柱建物遺構	2,000	48	工事実施	#
104	中村松田遺跡	中村1丁目65-2外	#	弥生後	堅穴住居跡	1,400	59		61~ 62年

57年～61年度 月別松山市古照資料館利用状況

年月	学 生	大 人	計	開館日数	1日平均人数
	男	女			
昭和57年4月	927人	264人	1,194人	1,383人	25日 3.5人
5	1,668	183	184	2,036	24日 8.5人
6	540	173	196	909	26日 3.5人
7	258	131	202	591	27日 2.1人
8	501	183	173	857	26日 3.3人
9	261	159	184	604	24日 2.5人
10	741	180	189	1,110	25日 4.4人
11	828	158	135	1,121	23日 4.9人
12	1,322	157	105	394	24日 1.6人
昭和58年1月	196	98	59	253	22日 1.6人
2	204	105	91	400	23日 1.7人
3	502	157	124	783	26日 3.0人
計	6,758	1,948	1,836	10,542	295日 3.6人
昭和58年4月	720	198	160	1,074	25日 4.3人
5	2,356	243	195	2,794	24日 11.6人
6	690	215	165	1,070	26日 4.1人
7	430	210	287	927	27日 3.4人
8	813	258	222	1,293	26日 5.0人
9	419	285	541	1,245	24日 5.2人
10	538	263	259	1,060	25日 4.2人
11	527	185	262	1,024	19日 5.4人
12	11/25	1/9まで 実務工水のため休館			
昭和58年1月	153	180	88	421	19日 2.2人
2	116	175	120	411	24日 1.7人
3	602	124	67	793	26日 3.1人
計	7,414	2,332	2,566	12,112	265日 4.6人
昭和59年4月	712	143	84	939	24日 3.9人
5	2,246	182	257	2,686	25日 10.7人
6	244	111	188	543	26日 2.1人
7	215	39	95	349	26日 1.3人
8	203	33	58	254	27日 1.1人
9	268	32	91	391	24日 1.6人
10	673	36	189	658	24日 3.7人
11	263	107	89	459	24日 1.9人
12	251	25	23	299	24日 1.2人
昭和60年1月	44	36	24	104	23日 5人
2	69	22	7	98	23日 4人
3	98	53	21	172	26日 7人
計	5,286	819	1,126	7,231	296日 2.4人
昭和60年4月	606	62	38	706	24日 2.9人
5	1,514	151	201	1,866	25日 7.5人
6	392	229	211	832	26日 3.2人
7	201	72	71	344	26日 1.3人
8	483	88	85	656	27日 2.4人
9	890	278	352	1,520	23日 6.6人
10	819	156	273	1,248	25日 5.0人
11	471	336	477	1,284	24日 5.4人
12	170	77	96	343	24日 1.4人
昭和61年1月	219	55	67	341	23日 1.5人
2	207	54	75	336	23日 1.5人
3	1,490	141	119	1,750	25日 7.0人
計	7,462	1,699	2,065	11,226	295日 3.8人
昭和61年4月	393	173	182	746	25日 3.0人
5	1,485	154	214	1,853	25日 7.4人
6	541	60	83	484	25日 1.9人
7	154	116	151	421	27日 1.6人
8	303	159	156	618	27日 2.3人
9	230	121	436	787	23日 3.4人
10	583	202	333	1,118	25日 4.5人
11	403	208	266	827	24日 3.7人
12	739	267	208	1,214	23日 5.3人
昭和62年1月	599	179	248	1,027	23日 4.5人
2	159	217	218	894	23日 3.9人
3	1,430	169	234	1,883	23日 7.3人
計	7,119	2,035	2,730	11,574	295日 4.0人

年度別 古照資料館利用状況調

年度	年間利用者数	開館日数	1日平均利用者数	備考
49	10,428	306	34	1月15日開館
50	13,556	314	43	
51	10,496	306	34	
52	12,310	302	41	
53	11,556	298	39	
54	11,808	298	40	
55	11,989	296	40	
56	10,936	295	37	
57	10,542	295	36	
58	12,112	265	46	床改修工事休館11/25~1/9
59	7,231	296	24	
60	11,226	295	38	天井改修工事8/13~8/19
61	11,874	295	40	

年度別 発掘調査による出土遺物数

年度	総点数	収納 コンテナ数	備考
46~48年	5,639	110	
49	5,880	120	
50	953	50	
51	14,130	280	
52	52,062	1,000	
53	4,888	70	
54	36,172	720	
55	2,593	150	
56	1,294	75	
57	15,805	415	
58	4,179	150	
59	2,542	120	
60	12,549	350	
計	154,286	3,610	

近年7ヶ年の試掘及び発掘状況

年度	試掘立合 件数	発掘 件数	発掘 日数	出 土 遺 物 数	備考
55	25 ³	4	360 ¹¹	2,593 ⁶	
56	29	5	390	1,294	
57	32	5	271	15,805	
58	37	5	119	4,179	
59	39	8	342	2,542	
60	40	11	429	12,549	
61	51	7	552	整 理 中	

松山市文化財調査年報 I

昭和60～61年度

発行日 昭和62年3月

発行 松山市教育委員会

〒790 松山市二番町4丁目7番地2

T E L (0899)48-6520

印刷 岡田印刷株式会社

